

授業概要

この授業では、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の『ハムレット』を取りあげる。言わずと知れた、世界文学史上最高の作品のひとつであり、人間存在の深奥に迫る必読の作品である。この作品のテキストを、翻訳を用いて精読していく。また、テキスト講読と同時に、毎回作品のより深い理解のために、さまざまなテーマについても取り上げ、検討していく。

授業計画

第 1 回	イントロダクション
第 2 回	『ハムレット』 第一幕（1）／『ハムレット』の原作とデンマーク
第 3 回	『ハムレット』 第一幕（2）／『ハムレット』における亡霊
第 4 回	『ハムレット』 第二幕（1）／『ハムレット』における独白
第 5 回	『ハムレット』 第二幕（2）／ハムレットの演劇論
第 6 回	『ハムレット』 第三幕（1）／『ハムレット』における劇中劇
第 7 回	『ハムレット』 第三幕（2）／日本における『ハムレット』受容について
第 8 回	『ハムレット』 第四幕（1）／オフィーリア
第 9 回	『ハムレット』 第四幕（2）／ホレイショー
第10回	『ハムレット』 第五幕（1）／ローゼンクランツとギルデンスターン
第11回	『ハムレット』 第五幕（2）／ヨリックと墓掘り
第12回	全幕をふりかえる
第13回	世界のさまざまな『ハムレット』上演について
第14回	さまざまな『ハムレット』の翻案について
第15回	まとめ
第16回	筆記試験

到達目標

文学作品の持つ可能性を最大限引き出すために必要なことを、授業の中で実践していく。歴史的背景や文化的背景を知ること、「ことば」をコンテキストに即して読むことの重要性を学んでいく。さらに、さまざまなことを幅広く学びながら、文学作品のより深い理解に欠かせない知識も蓄積していく。

履修上の注意

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。授業で使用するテキストは、翻訳を購入すること。また、授業中の携帯電話、スマートフォンなどの使用は厳禁とする。

予習・復習

予習として、テキストとして購入した翻訳を、丁寧に読むこと。また、復習として、授業で学んだことを活かして再読すること。またセリフは音読してみるとよい。さらに、授業で取り上げた毎回のテーマについて、自ら調べ、理解を深めるよう復習してほしい。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、リアクション・ペーパー、確認テストなどを点数化し、学期末の筆記試験と合わせて、総合的に評価する。学期末筆記試験60%、各種課題20%、授業態度20%。

テキスト

ウィリアム・シェイクスピア『ハムレット』（翻訳者、出版社は問わない。ちくま文庫、角川文庫、岩波文庫、光文社文庫が入手しやすい。）各自、開講時まで購入すること。また、図書館などを利用して、複数の翻訳を購入して読み比べることもすすめる。